

II-2 2005年10月「北方領土」ロシア住民世論調査

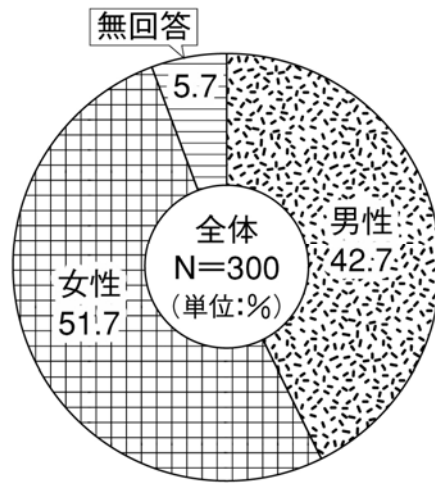
1.調査概要

- **調査目的** 11月22日（火）のプーチン大統領の訪日にあわせ、北方四島のうち3島（択捉島、国後島、色丹島）の島民ロシア人300人を対象に北方領土に関する住民意識調査を実施、紙面づくりの基礎データを収集することを目的とした。
- **調査期間** 2005年10月21日（金）～10月28日（金）
- **調査対象** 北方四島のうち択捉島、国後島、色丹島に住むロシア人300人（※各100サンプルの計300サンプル）
- **調査方法** サハリンの新聞社「自由サハリン」の協力を得て、現地調査員が質問票を配布・回収した。
回答者は科学的に抽出したものではないが、年齢や職業など可能な限り幅広い層から回答を得られるよう努めた。
- **回答数** 300人（回収率100.0%）
- **調査結果報告日** 2005年11月9日（水）
- **調査主体者** 北海道新聞社編集局報道本部
- **調査実施機関** 北海道新聞情報研究所・調査研究部

2. 回答者の属性

(北海道新聞情報研究所・調査研究部)

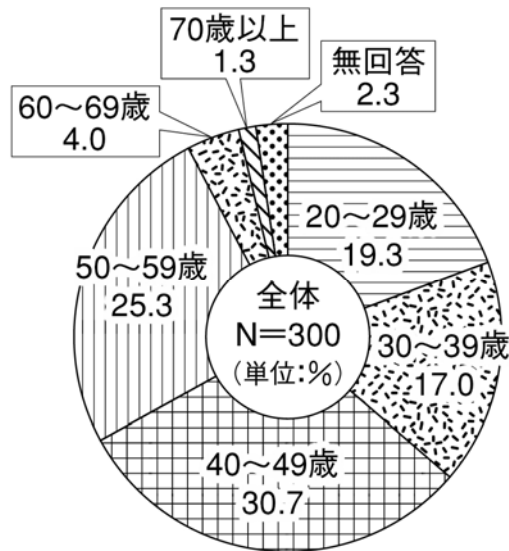
1 性別



回答者の男女の比率は、男性が42.7%、女性が51.7%となっており、無回答は5.7%だった。

島別で見ると、択捉島では男性41.0%に対し女性58.0%、色丹島では男性35.0%に対し女性は55.0%と女性の方の比率が高くなっているが、国後島では男性が52.0%で、女性の42.0%を上回っている。

2 年齢

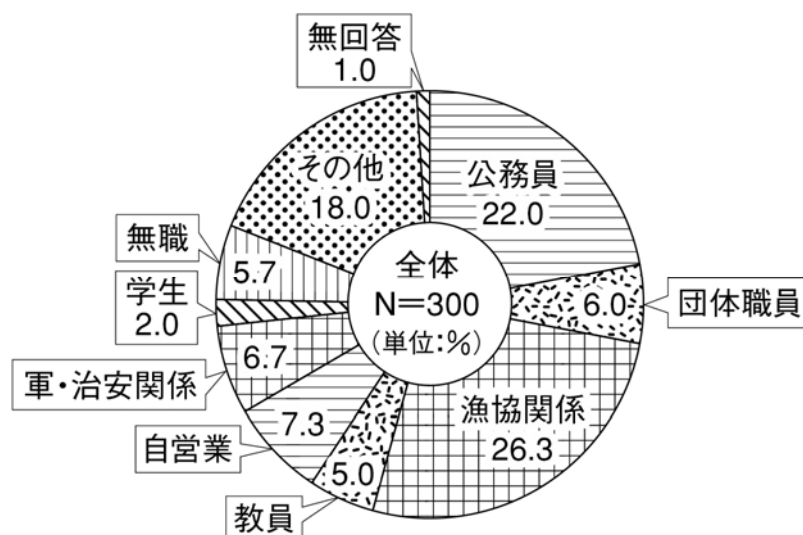


全体では40~49歳（40代）が最も多く、30.7%と3割を占めている。以下50~59歳（50代）25.3%、20~29歳（20代）19.3%、30~39歳（30代）17.0%、60~69歳（60代）4.0%と続き、70歳以上は1.3%にとどまった。また、2.3%の人が年齢について無回答だった。

性別で見ると、男性は20代17.2%、30代14.1%、40代32.0%、50代26.6%、60代6.3%、70歳以上1.6%。女性は20代21.9%、30代18.7%、40代29.7%、50代23.2%、60代2.6%、70歳以上1.3%となっている。

島別では、択捉島は20代20.0%、30代19.0%、40代24.0%、50代28.0%、60代6.0%、70歳以上3.0%。国後島は20代27.0%、30代18.0%、40代34.0%、50代16.0%、60代2.0%、70歳以上1.0%。色丹島は20代11.0%、30代14.0%、40代34.0%、50代32.0%、60代4.0%で、70歳以上はいなかった。

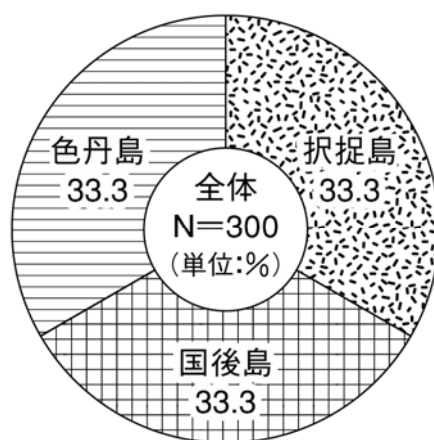
3 職業



全体では「漁協関係」が26.3%で最多。以下「公務員」22.0%、「自営業」7.3%、「軍・治安関係」6.7%、「団体職員」6.0%、「無職」5.7%、「教員」5.0%と続く。「その他」は18.0%で、無回答は1.0%だった。

島別でも、択捉島と国後島では「公務員」がそれぞれ24.0%、27.0%で最も多いが、色丹島では「漁協関係」が50.0%とひとときわ多くなっている。

島別

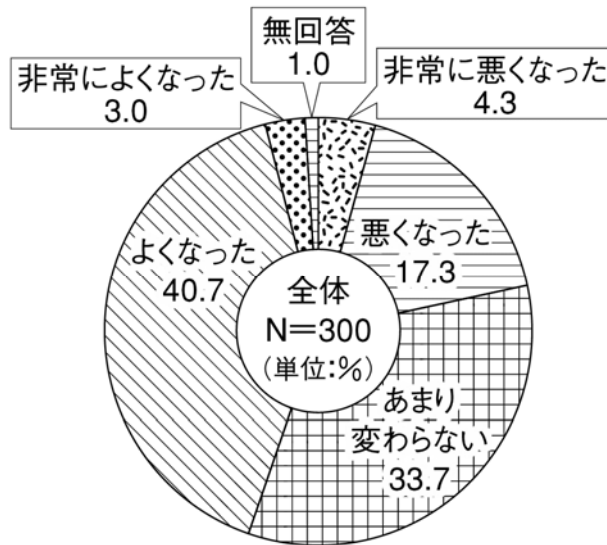


島別では、各島とも100%の回収率。

3. 結果の概要

(北海道新聞情報研究所・調査研究部)

4 生活の実態（プーチン大統領就任後のこの5年間で）



「よくなった」が40.7%で最多。以下「あまり変わらない」33.7%、「悪くなった」17.3%、「非常に悪くなった」4.3%、「非常によくなった」3.0%と続く。

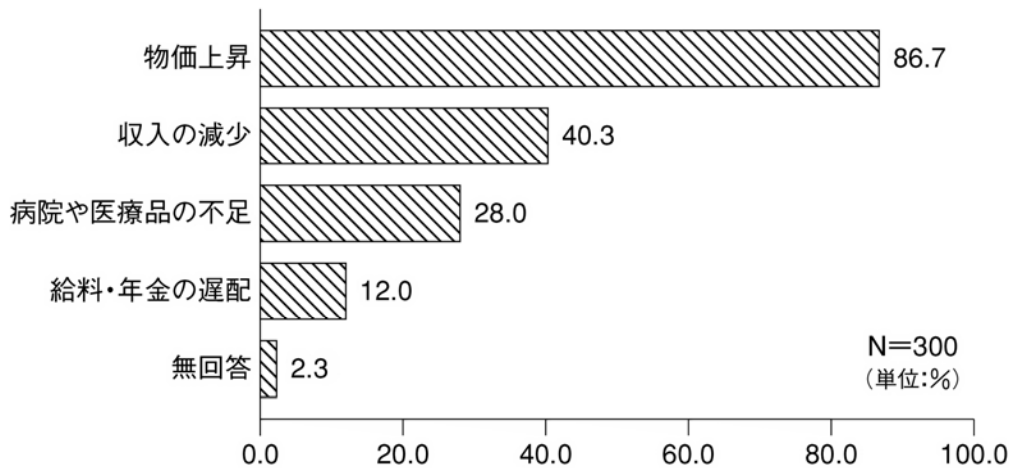
「よくなった」と「非常によくなった」を合わせた『よくなった』と感じている層は43.7%で、「悪くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた『悪くなった』と感じている層(21.7%)の2倍に上る。

性別で見ると、男性では『よくなった』層が39.8%、『悪くなった』層が24.2%となっているのに対し、女性では『悪くなった』層は19.4%にとどまり、『よくなった』層が46.5%と男性よりも高い数値を示している。

年代別にみると、『よくなった』と感じている層は20代の若年層にひときわ多く、65.5%と6割を超えている。

島別で見ると、国後島と色丹島では『よくなった』と感じている層がそれぞれ半数に達しているが、択捉島では「あまり変わらない」が41.0%で最も多く、『よくなった』層と『悪くなった』層は3割前後で拮抗している。

5 現在の生活の問題点（複数回答可）



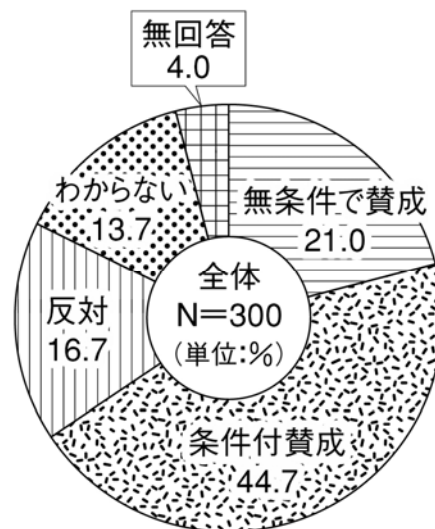
「物価上昇」が86.7%と圧倒的多数を占める。以下、「収入の減少」40.3%、「病院や医療品の不足」28.0%、「給料・年金の遅配」12.0%と続く。

性別でも、回答傾向に大きな違いはみられない。

年代別では、いずれの年代でも「物価上昇」がトップとなっているが、20代では「病院や医療品の不足」(29.3%)が「収入の減少」(22.4%)を僅差で抑え、2位となっている。

島別でも3島の回答傾向はさほど変わらないが、択捉島では「給料・年金の遅配」が26.0%と2割を超え、色丹島では「収入の減少」が47.0%と他の2島に比べてやや多くなっている。

6 平和条約への賛否



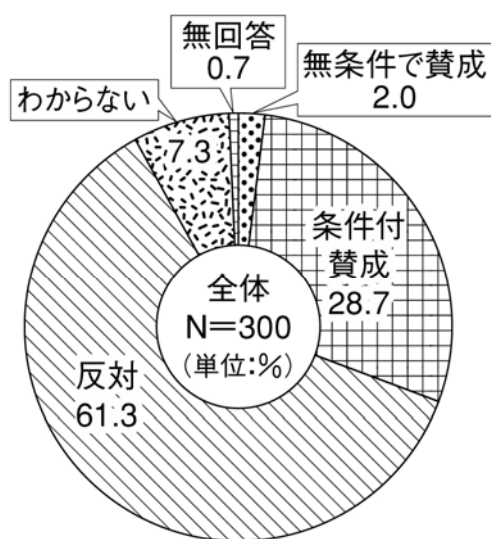
「条件付賛成」が44.7%で最多。以下「無条件で賛成」が21.0%、「反対」16.7%、「わからない」13.7%と続く。「無条件で賛成」と「条件付賛成」を合わせた『賛成』派は65.7%で、「反対」の16.7%を49ポイントも引き離れた。

男女とも『賛成』派が「反対」を大きく上回っており、特に男性では「無条件で賛成」が25.8%と女性（15.5%）よりも10ポイントほど高い。一方、女性では「わからない」が18.1%で男性（7.8%）の2倍以上になっている。

また、年代別・島別でも、いずれも『賛成』派が半数を超えている。

4の「生活の実態」との関連でも特に大きな差はなく、どの層でも『賛成』するとの声が6割以上を占めている。

7 北方領土の日本への返還



「反対」が61.3%と全体の半数を超えている。以下「条件付賛成」28.7%、「わからない」7.3%、「無条件で賛成」2.0%と続く。「無条件で賛成」と「条件付賛成」を合わせた『賛成』派は30.7%で、「反対」の約半数にとどまる結果となっている。

性別で見ると、「反対」との声は男性（68.0%）の方が女性（57.4%）よりも10ポイントほど多くなっている。

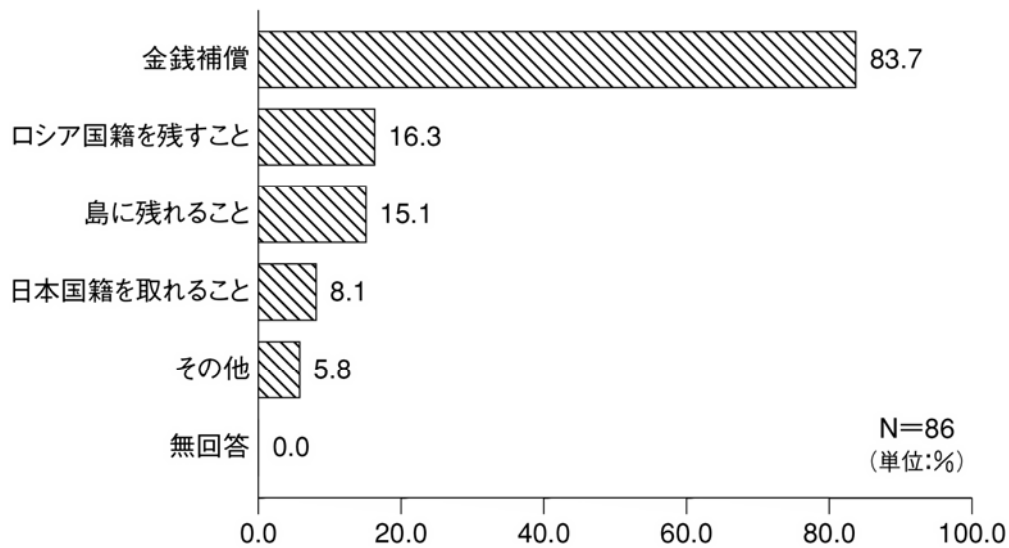
年代別で見ると、20代～30代と60代以上の層では「反対」が7割を超え、40代でも約6割を占めているが、50代では『賛成』派（44.7%）と「反対」（48.7%）が4割台で拮抗し、返還に対し歩み寄りの余地がある姿勢をみせている。

職業別で見ると、「反対」と答えた人は自営業や軍・治安関係にひときわ多く7～8割台を占めているのに対し、漁協関係や無職の層では『賛成』派が4～5割台と多くなっているのが注目される。

島別で見ると、択捉島では80.0%が「反対」と返還に強い拒絶の姿勢をみせ、国後島でも63.0%が「反対」と答えている。漁協関係者の多い色丹島では50.0%が「条件付賛成」と回答している。

また4の「生活の実態」との関連では、「あまり変わらない」「よくなった」と答えた層では「反対」が6割以上を占めるが、『悪くなった』と感じている層では『賛成』派（47.7%）が「反対」（44.6%）を上回っているのが特徴的。

8 (7で「条件付賛成」と回答した86人へ) どのような条件か



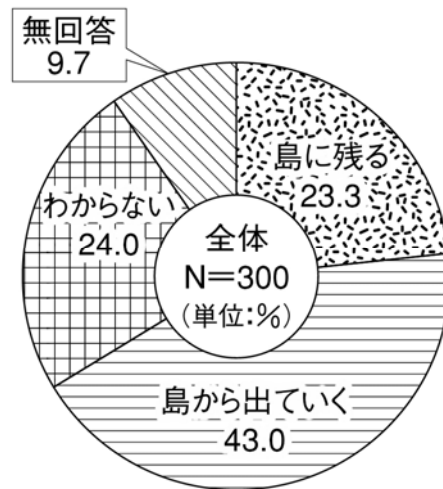
「金銭補償」が83.7%と圧倒的に多く、2位以下は「ロシア国籍を残すこと」16.3%、「島に残れること」15.1%、「日本国籍を取れること」8.1%、「その他」5.8%といずれも1割前後の割合にとどまっている。

性別でも「金銭補償」の高さに変わりはないが、特に女性では93.5%と9割を超える高率となっている。また、2位以下は男性が「島に残れること」「ロシア国籍を残すこと」(各21.2%)、「日本国籍を取れること」(12.1%)となっているのに対し、女性は「ロシア国籍を残すこと」(13.0%)、「島に残れること」「日本国籍を取れること」(各6.5%)となっており、女性の方が、島に残ることに対してこだわりを持っていない様子が伺える。

年代別では、おおむね年齢が若くなるほど「金銭補償」の比率が低下して「島に残れること」との回答が増加する傾向がみられ、20代～30代では3割近くに上っている。

島別にみると、択捉島と色丹島では「金銭補償」が9割前後を占めるのに対し、国後島では約6割と少なく、「島に残れること」や「その他」が2割台と比較的多くなっている。また、択捉島では「ロシア国籍を残すこと」が3割近くに上り、他の2島に比べて多いのが目を引く。

9 返還後の対応



「島から出ていく」が43.0%で最も多くなっている。次いで「わからない」(24.0%)と「島に残る」(23.3%)が拮抗。無回答は9.7%だった。

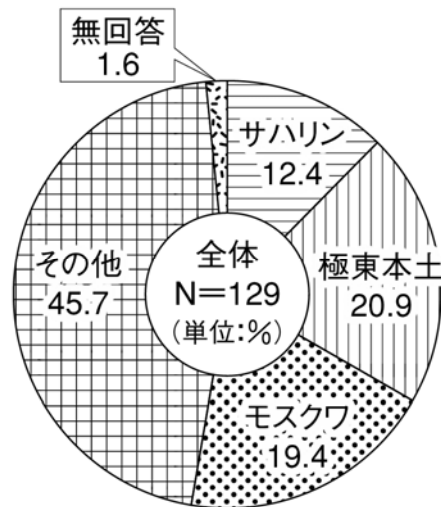
男女とも「島から出ていく」が最多である点は変わらないが、男性の場合は「島から出ていく」(39.8%)と「島に残る」(26.6%)の差は13ポイントとなっているのに対し、女性では「島から出ていく」(47.1%)が「島に残る」(18.1%)を29ポイントも上回り、女性の方が返還後は島から出ていくという姿勢が強い。

年代別では、20代で「島に残る」が34.5%で「島から出ていく」(25.9%)を上回っており、他の年代とは違った傾向を示している。

また、島別で見ると、択捉島と色丹島では「島から出ていく」が4～5割を占めて最多だが、国後島では「島に残る」(39.0%)が「島から出ていく」(34.0%)をわずかに上回っている。

7の「北方領土の日本への返還」の賛否との関連で見ると、返還に『賛成』と答えた層では「島から出ていく」という人が60.9%と6割に達し、返還は「反対」する層(34.8%)を大きく上回っている。一方、「島に残る」という人の割合は、どちらも2割強で、差はなかった。

10 (9で「島から出ていく」と回答した129人へ) 具体的にはどこへ行くか



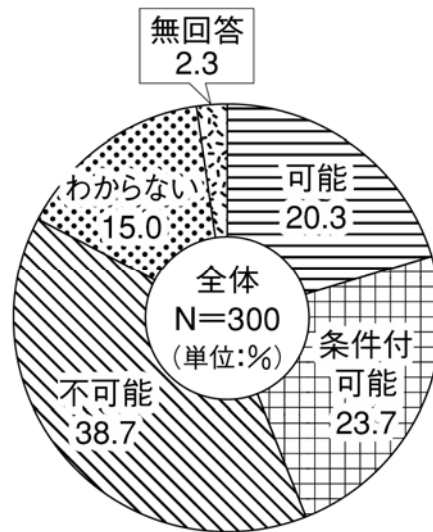
「極東本土」(20.9%)と「モスクワ」(19.4%)が拮抗、「サハリン」は12.4%と1割台にとどまった。また全体の45.7%が「その他」を選択した。

性別でみると、男性では「モスクワ」(21.6%)、「極東本土」(15.7%)、「サハリン」(9.8%)の順になっているのに対し、女性では「極東本土」(24.7%)、「モスクワ」(16.4%)、「サハリン」(15.1%)となっており、男女間で傾向にやや違いがみられる。

年代別でみると、40代で「モスクワ」(26.2%)が「極東本土」(11.9%)よりも多くなっているほかは、いずれの年代でも具体的に選択した地名としては「極東本土」が最も多くなっている。

島別では、色丹島で「モスクワ」(25.0%)が「極東本土」(15.4%)を上回ったが、他の2島ではいずれも「極東本土」が最も多かった。

11 日本人との共住は可能か



「不可能」が38.7%で最多。以下「条件付可能」23.7%、「可能」20.3%、「わからない」15.0%と続く。無回答は2.3%だった。「可能」と「条件付可能」を合わせた『可能』は44.0%で、「不可能」をわずかに上回る結果となった。

性別で見ると、男性では『可能』と考える人が53.1%と半数を超えているのに対し、女性では35.5%と3割台にとどまっている。一方「不可能」は男性(32.8%)を女性(45.2%)が大きく上回っている。

年代別で見ると、30代と60代以外の層では『可能』が「不可能」を上回っているが、30代と60代ではそれぞれ「不可能」が半数に達している。

島別で見ると、国後島では『可能』(55.0%)が「不可能」(29.0%)を大きく上回っているが、択捉島では「不可能」(47.0%)が『可能』(37.0%)よりも高く、色丹島では『可能』と「不可能」が40.0%で同率と、各島ごとに異なった傾向を示している。

また、7の「北方領土の日本への返還」の賛否との関連で見ると、返還に『賛成』という層では『可能』が57.6%と過半数を占めるのに対し、返還に「反対」と答えた層では「不可能」(46.2%)が『可能』(36.4%)を約10ポイント上回っている。